

和歌山市立名草小学校

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

実施日：平成30年4月17日(火) 実施対象：6年生 2学級 61名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。**国語A・算数A**では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて**国語B・算数B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。**理科**では知識と活用を一体的に出題されます。

教科調査の結果分析より

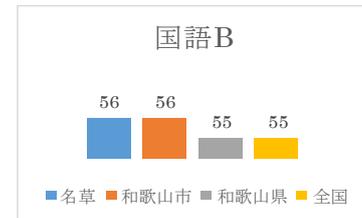
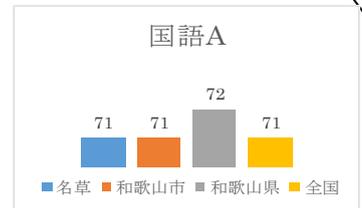
《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

国語A、国語Bともに全国平均とほぼ同じ正答率になっています。

学習指導要領の領域別でみると国語A国語Bともに「読むこと」で正答率が高く、国語Aで「書くこと」で正答率が低くなっています。

正答率の低い問題別にみると、

- 課題①文章構成の効果を考え、その工夫について適切なものを選ぶ問題
 - 課題②目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読み、その説明とし適切なものを選ぶ問題
- となっています。



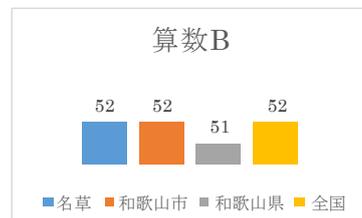
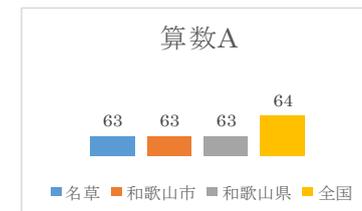
《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

算数A、算数Bともに全国平均とほぼ同じ正答率になっています。

学習指導要領の領域別でみると、算数Aで「数と計算」で正答率が高く、「量と測定」で正答率が低くなっています。算数Bでは、特に正答率が低い領域はありません。

正答率の低い問題別にみると、

- 課題①単位量当たりの問題
 - 課題②敷き詰めた図形の問題
- となっています。



《理科の調査結果に見える本校児童の傾向》

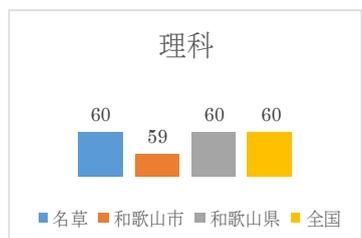
理科についても全国平均とほぼ同じ正答率になっています。

学習指導要領の区分別でみると、「地球」で正答率が高く、「生命」で正答率が低くなっています。

また、評価の観点別にみると、「科学的な思考・表現」で正答率が高く、「観察・実験の技能」と「自然事象への関心・意欲・態度」で正答率が低くなっています

正答率の低い問題別にみると

- 課題①人体の名称や概念についての問題
 - 課題②ろ過の適切な操作方法を身に付けていることを問う問題
- となっています。



質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《生活面について》

朝食を確実に食べるという項目で10人が「どちらかといえば当てはまらない」を選んでいました。「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を確認いただき、是非、実践していただけるようお願いいたします。

《学習意欲について》

自主学習ノートを実践していることで、自分で計画を立てて学習する児童(86.9%)や予習・復習を行っている児童の割合(85.3%)が全国平均(67.6% 62.6%)を上回っています。今回の全国学習状況調査の結果についても、その効果が表れていると考えられますので、継続していくように取り組みます。

《地域との関連について》

地域に関心を持ち(88.5%)、人や物との関わりを持っている児童の割合(93.5%)が全国平均(63.8% 74.4%)を大きく上回っています。今後とも、学校・家庭・地域の協力のもと児童を育てていけるように取り組んでいきたいと考えています。

《学習方法について》

学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童(86.8%)が全国平均(77.7%)を上回っています。

今後とも、話し合い活動を重視し、主体的で対話的で深い学びが実現できるように、授業改善に取り組む続けます。

調査結果を受けて、本校が具体的にに取り組んでいくこと

《国語科の課題に対して》

- ・登場人物の気持ちを考えるだけでなく、文章構成についても着目していけるような授業を計画する。
- ・目的をもって文章や本を読む授業を構成し、読書でも目的を持った読書をさせるようにする。

《算数科の課題に対して》

- ・全体と部分の関係を「単位量当たり」でとらえる指導を徹底する。
- ・「比べる量」「もとにする量」「割合」の関係について数学的活動を通して理解させ、「単位量当たり」の考え方を身に付けさせる。
- ・敷き詰められた図形から、図形の要素に着目して条件に合う図形を見つける活動に取り組む。
- ・敷き詰められた図形から楽しみながらいろいろな図形を見つける活動を取り入れる。

《理科の課題に対して》

- ・人体構造についての科学的な言葉や概念を人体模型等を使い具体的に理解させる授業を計画する。
- ・自分なりに仮説を立て、その仮説を証明するための実験を計画し、実際に実験する活動を重視する。
- ・実際の実験で試行錯誤するとともに、失敗の原因等を科学的に追及する実践を授業に組み込む。

《児童質問紙の課題に対して》

- ・子どもの学力を支える生活の重要性をご理解いただき、「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底を、家庭でも取り組んでいただけるようお願いいたします。